



ART&SOCIETY  
RESEARCH CENTER

7/30 18:30-20:15 木

Photo courtesy of Fundred Project

気候危機とエンパシー

ヒロシマ賞受賞アーティスト  
メル・チンが語る

Mel Chin Speaks  
on Climate Crisis  
and Empathy

コクーンホールB  
(新宿・コクーンタワー3F)  
主催: アート&ソサイエティ研究センター+BIOCITY  
協力: 国際ファッション専門職大学 (PIIF)

## 環境危機や社会課題にアートは何ができるのか

NPO法人アート&ソサイエティ研究センターと環境総合誌『BIOCITY』は、現代社会が抱えるさまざまな課題に、人々とともに行動し、向き合う、新しいアートの潮流に注目し、書籍刊行、展覧会、トークイベントなど、さまざまなかたちで紹介してきました。

昨年、その牽引者の一人であるメル・チン氏が、ヒロシマ賞を受賞し、7月25日より広島市現代美術館で受賞記念展が開催されます。この機に、来日するメル・チン氏を招き、東京での講演会を企画しました。受賞記念展で新たに発表される、「はだしのゲン」の作家、中沢啓治氏へのオマージュ作品や、エンパシー（共感）の輪を拡げていくアート・プロジェクトの紹介を通して、気候危機などの深刻な問題に対し、アートがいかに社会的意識と責任を喚起するかを、語っていただきます。

### 開催概要

日時 | 2026年7月30日(木) 18:00 開場 18:30 開演  
会場 | コクーンホールB(新宿・コクーンタワー3F)  
定員 | 150名(事前申込制) ※オンライン参加の申し込み締切: 7月29日(水) 12:00  
参加費 | 一般: 1,500円(会場・オンライン共通)  
学生: 無料(会場・オンライン共通) ※当日学生証の提示必要  
主催 | 特定非営利活動法人アート&ソサイエティ研究センター+BIOCITY  
協力 | 国際ファッション専門職大学 (PIIF)

プログラム | 18:30~19:30メル・チン[Mel Chin] 講演  
19:40~20:10 対談 メル・チン+大西若人氏(朝日新聞編集委員)

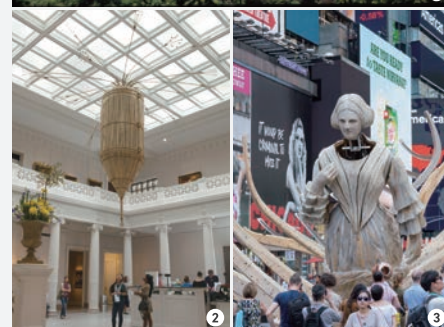
### 登壇者プロフィール



photo credit: Miriam Heads

#### メル・チン | Mel Chin

1951年、アメリカ合衆国テキサス州ヒューストン生まれ。1975年にテネシー州ナッシュビルのピーボディ・カレッジで文学士号を取得。1980年代から社会問題に踏み込んだアーティスト活動を開始する。彫刻、ドローイング、絵画、ビデオ、アニメーションから大規模なインスタレーションまで、多様な表現形式をサイエンス、テクノロジーと融合し、環境汚染や気候変動をはじめ、暴力、植民地支配など社会・政治に関わる複雑な問題に独自のアプローチで切り込んでいる。また、コミュニティを巻き込んで地域の課題に向き合い、長期にわたって展開するソーシャリー・エンゲイジド・アート・プロジェクトでも知られる。



#### イベントの詳細

本イベントの詳細、お問合せは、  
ウェブページよりご確認ください。



#### イベントのお申込み

Peatix専用ページよりチケットを  
お申込みいただけます。



画像: 1《リバイバル・フィールド》(1991~) 化学者と協働し、重金属で汚染された土壌を植物で浄化する試み Photo: David Schneider | 2《私たちの奇妙な民主主義の花》(2005年) ベトナム戦争で使われた米軍の爆弾を模した竹製の物体を吊り下げた作品。残虐な軍事行動の矛盾を突く Photo: Judy Cooper | 3《ウェイク、アムアド》(2018年) 経済的繁栄と気候危機の関係を巨大な彫刻作品と複合現実で表現 Image courtesy of the artist. | 4《ファンドレッド・ダラー・ビル》(2008年) ハリケーンによる土壌汚染に対し、子供たちが架空の100ドル札を描き、政府に対策資金の拠出を求めるPT Photo: Yassine El Mansouri, courtesy Fundred Project. | 5《プリント・フィット》(2018年) ペットボトル9万本から生地を再生し衣服を作るPT